

ニュージーランド体験記

山田 晃大（東北公益文科大学公益学部2年）

はじめに、私のニュージーランド短期語学留学での目標を紹介したいと思う。まず、語学力の面では、①相手の言葉を聞き取れるようにする、②自分の言いたいことを英語だけでしっかり伝えられるようにする、③たくさんの人とコミュニケーションをはかる、④ネイティブな英語の発音を喋れるようにする、だった。生活全般では、①ホストファミリーと仲良くなる、②自分の意見をはっきり言う、③何もしない時間を作らない、④友達をたくさん作る、⑤食文化を楽しむ、⑥スポーツを楽しむ、だった。この目標の評価の結果は、最後に書きたいと思う。

私がこのニュージーランド短期留学に参加しようと思ったのは、単なる好奇心からであった。英語に特別苦手意識はなかったが、得意だったわけでもない。正直に言えば、高校時代から考えれば自分が留学するとは思ってもしなかった。

ただ、大学に入学してニュージーランド短期語学留学の存在を知り、なぜか気になり昨年の留学の資料を調べてみた。すると、ますます興味を持ち、短期語学留学に参加したいと思うようになった。今まで強く何かをしたいと思うことがあまりなく、ここまで心を動かされたのは初めてに近かった。また、「大学で学生のうちにしかできないことをしよう」と決めていたので、留学することに迷いはなかった。

私にとって初めての海外。そう考えただけでテンションがあがった。しかし、出発の日が近づけば近づくほど、不安が大きくなっていった。はたして自分の英語がどこまで通用するのだろうか。自分の海外での生活が全くイメージできず、悩む日々が続いた。

そして、いよいよ出発の日。まだ薄暗い酒田を後に、秋田空港に向かった。ここで、ハプニングが発生した。秋田が吹雪で飛行機が着陸できないとのことだった。そのせいで、予定していた韓国－ニュージーランド間のフライトに間に合わなくなったため、私たちは韓国に一泊することになった。この日の韓国の気温は、 -5°C 。軽装だったこともあり、凍えてしまいそうだった。しかし、思ってもいない韓国滞在中で、本場の石焼きビビンバやキムチを食べ、観光もできたのはラッキーだった。

次の日、一日遅れでニュージーランドに向かった。ニュージーランドに着き、バスですぐにワイカト大学に向かった。ニュージーランドに着いてまず思ったのが、とにかく「暑い!」。それもそのはず、日本とは季節が逆だからだ。まさに「異国に来た」と感じさせられた。

この日はとても天気がよく、バスから見える景色がとてもきれいだった。ニュージーランドの景色に感動していると、あっという間に大学に到着した。初日は、授業のガイダンスやクラス分けのテストをした。そして、ようやくホストファミリーとの対面である。この日はホストマザーの Pam に迎えに来てもらった。自己紹介の言葉は考えていたものの、いざ喋ろうと思うと思うように言葉が出てこない。それでも、私の話を熱心に聞いてくれ、考えながら理解してもらえたようだった。家に着き、他のホストファミリーにも自己紹介をした。家族構成は、父 (Grant)、母 (Pam)、娘 (Hayley)、息子 (Marc) の四人家族だ。みんな優しく、たくさん話しかけてくれた。しかし、聞き取れないことがあったり自分の意見が英語でパッと出て来ず、辞書を使いながらの会話だった。

次の日から本格的に授業が始まった。午前中は主にライティングとリスニングで、午後はスピーキングといった授業だった。この日は初

めでの授業ということもあり、とても緊張したことを覚えている。しかも、ネイティブな英語は聞き取りづらく、ゆっくり話してもらってやっと理解できる程度だった。授業が終わり、家に帰っても英語での会話が待っていた。食事は、日本とは違い主食がいもでさすがに飽きてしまうし、グリーンピースやニンジンなどの野菜が毎回たくさんでるのだが私の口にはあまり合わず、思うように食べられない時があった。また、日本とは生活のリズムが違い、夜 10 時くらいには就寝する。慣れないことの連続で、私は体調を崩してしまった。それが一週間くらい続いた。

私は、このときずっと考えていた。「早く日本に帰りたい」と。日本で普通に勉強して友達と遊んだり、アルバイトをしたり、何不自由なく生活を送れていることがどれだけ幸せなことか実感させられた。そんな私を救ってくれたのは、同じ時期に短期留学に来ていた他大学の日本人学生だった。たまたま午前中の授業が一緒に話す機会があり、いろいろな話をした。次第に仲良くなり、今の悩みやニュージーランドに来て大変だったことなど何でも話せるようになった。ニュージーランドに来て初めて愚痴を話せる友達ができて、心がとても楽になった感じがした。それから、次第に学校に行くのが楽しくなり、体調も良くなっていった。最初はあまり理解できなかった授業も、日に日に聞き取れるようになり、スピーキングの授業では、毎回出される話題に対してしっかり自分の意見も言えるようになった。

毎週金曜日には、アクティビティがあった。1 週目には、ラグランビーチに行った、海がきれいで高台から見える景色は絶景だった。海で泳ぎ、気分転換になった。

2 週目に行ったワイトモケーブスでは、洞窟を探索しボートに乗った。洞窟は神秘的な空間で、不思議な空気を漂わせていた。真っ暗の

中、蛍の光だけが輝いていて美しかった。

3週目は乗馬をした。今まで馬に乗ったことがなかったので、少し緊張した。いざ馬に乗ってみると、想像とは違い揺れがすごいと感じた。自分の行きたいところと違うところに行ったりもしたが、思い通りに動かせたときはとてもうれしかった。

休日はフリーだったので、ホストファミリーと出かけたり、友達と買い物に行ったり、充実した休みを過ごすことができた。その中でも、今回一緒に行った4人でオークランドまで買い物に行ったのは楽しかった。自分たちだけで知らない街を探索し、スカイタワーを見たりお土産を買いに行けたのは、いい思い出になった。

そのようにしてあっという間に3週間が過ぎた。最後のフェアウェル・パーティでは、折り紙を披露した。盛り上がるか不安だったが、ホストファミリーの方々が盛り上げてくれたので、和やかにお別れ会をすることができた。修了証書をもらい、3週間たくさんのことがあったことを思い出しながら、フェアウェル・パーティが終了した。

私はこのたった3週間の滞在で多くのことを学べたと思っている。ニュージーランドの文化や習慣、語学力もそうだが、一番感じたのは、人とのつながりだ。日本人の私を受け入れてくれて、私の話が分からなくても何度も理解できるまで聞いてくれたホストファミリー。毎日の生活についていけず体調を崩した時に私の話を聞いてくれた友達。買い物に行った時など、道に迷った時に親切に道を教えてくれるニュージーランドの方々。

私は、これらの人と出会うことができ本当にうれしく思う。みんながいたから3週間の滞在をかけがえのないものにすることができたのだ。最初は「日本に帰りたい」と思っていたが、2週目、3週目と帰る日が近づくごとに「もっとニュージーランドにいたい」と思え

るようになった。これは多くの方々のおかげだと思う。自分だけでは解決できなかったことを、周りの人に助けてもらいながら乗り越えていくことができた。今回留学をする上で関わって下さった皆様に感謝したい。このことは私の中で大きな財産となるだろう。

ニュージーランドに留学し新たなことに積極的にチャレンジしていこうという意欲も出てきた。何事も考えてばかりでは答えは出ない。まずはチャレンジして、結果が出てから考えればいい。やらなくて後悔するよりも、やって後悔することの方が今後の人生においてプラスになる。ニュージーランドで学んだことを忘れずに、これからの生活を送っていきたいと思う。

最後に、短期留学での目標の達成度を、以下の1～5段階で自己評価した。1. 全く変わらない、2. 少しだけ達成できなかった、3. 変わらない、4. 少し達成できた、5. 達成できた。

語学力：①4 ②5 ③5 ④3

生活全般：①5 ②4 ③5 ④5 ⑤3 ⑥3